

言葉で感じる季節

きくびより  
菊日和

菊の花が盛りの頃、よく晴れて、菊の香りで澄んだ秋の日のこと。

日本全国でも「菊花展」や「菊まつり」などが開催される季節です。

暑くも寒くもなくほどよい陽気のもと、菊の花を愛でるのに格好の日和。

肌をつく寒さで空気も澄み、これから本格的に迎える冬。畑では蒔日和です。



夏場の山間地域での栽培や収穫も終わりを迎え、山を下り京都市内へメイン産地が移り変わります。京都を囲む緩やかな山を遠くに望むことができ、今は殺風景な色ですが、ここ一面にねぎ畑が広がる冬と春先が楽しみです。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.198

2023年11月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP

4A

秋  
志

今月の  
ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

冬へ移り変わりゆく秋蒔のお届け

京都市と、海の京都・京丹後市で育ったねぎをお届けします。

9月までは記録的な猛暑と雨不足に悩まされましたが、10月頃から気温がグッと下がり、ねぎ自身が心地よく育つ生育適温になった頃から生育が進みました。また、気温が下がると虫の動きも活発になるのですが、今年は夏の終わり頃から特に多かったの



で、こまめに虫を予防する防除を行い、きれいなねぎに仕上げることができました。

秋から冬に向かっていく移り変わりの時期、葉の重みや厚みも感じていただきたいです。

農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

### 冬作、春作のために乗り越える秋

10月は、冬蒔作付けの佳境に入ります。11月に収穫予定のねぎの世話もしつつになるので、農人たちにとって最も忙しい時期になります。また、今年はこの時期のねぎを満足に用意することができず、お客様に迷惑をかけることになりました。出荷に間に合わせるよう、適期前に収穫するため、いつもより多めに収穫する必要があり、全体的な回復には時間を要します。その時間を少しでも早めよう、ねぎを1ミリでも伸びてくれるようにしようと、面追肥の頻度やこまめな管理を行い生育促進に努めています。

夏にひまわり栽培した畑での定植も始まりました！ひまわりの元肥でねぎ栽培に良い影響が出ますように、と。



とある日の農人日記。

10月後半に差し掛かり、その数日でねぎの生育が顕著で見た目でもわかるくらい伸びました。それとともに、収穫カゴの重さも変わり、運搬の際重くなったと実感しました。夏の苦勞が報われると感じます。(丹後エリア・浅尾)

来年の春を見据えて苗を植えていきます

こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。